

項目	確認事項	届出内容
<b>基本情報</b>	大学等名1(代表大学等)	関西福祉科学大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンサイフクシカガクダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F127310108189
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	インターンシップ科目(事前指導)、インターンシップ科目(インターンシップ・事後指導)
	学部・研究科等名	社会福祉学部・健康福祉学部
	担当教職員名・役職	社会福祉学部)吉田初恵:教授、山口美和:教授、久保田祐歌:准教授 健康福祉学部)河村諒:講師:治部哲也:教授、長見まき子:教授、松村歌子:教授
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	26
	受入企業等数	9
	受入企業等名	関西福祉科学大学図書館、サラヤ(株)、BCC(株)、一般財団法人京都工場保健会、中央労働災害防止協会、東京海上ビジネスサポート(株)、ナカトミファテーグケアクリニック、(株)ダイサン
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
<b>要素①</b>	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	
<b>要素②</b>	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年 大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 3単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	春学期の「インターンシップ(事前指導)で1単位、秋学期の「インターンシップ(事後指導・インターンシップ)」で2単位、計3単位
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい

要素③	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容		
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	インターンシップ実習の前に、教員が学生とともに企業を訪問し、実習内容の打合せ等を行っている。	
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細		
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ実習中には、教員が実習学生を訪問し、担当者への挨拶、実習内容の確認、実習中に困ったことはないかななどの確認をしている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
		4.その他
4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	実習日誌	

	4-3.上記回答内容に関する詳細	社会福祉学部では、実習日誌によりインターンシップで履修生が感じたこと、気づいたことなどを記述させ、教育的効果を測定している。健康福祉学部では、実習日誌に加え、履修生全員を対象にジェネリックスキルを測定するPROGテストを実施している。PROGテストの結果を用いて、インターンシップ実習への参加経験の有無によるジェネリックスキルの比較を行い、教育効果を測定している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	社会福祉学部では5日以上の実施時間を確保したが、健康福祉学部ではコロナ禍での実習となったため、5日以上にわたる長期間の実習を実施できなかった。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	受入れ企業にもインターンシップ中の学生に対する評価を実施してもらい、それを成績評価に組み込んでいる。また、事後学習でのインターンシップ報告会に、受入れ企業に参加してもらい、コメントを頂くなどしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問い合わせ先	大学等名	関西福祉科学大学
	担当部署名	教務部
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	井上智
	電話番号	072-977-9549
	メールアドレス	<a href="mailto:ino@tamateyama.ac.jp">ino@tamateyama.ac.jp</a>